

小学校歌唱共通教材における伴奏付けの一考察 —北海道公立学校教員採用候補者選考検査（音楽実技検査） 出題曲における簡易伴奏付けを中心に—

A Study on Piano Accompaniment on Singing Educational Materials
Used at Elementary Schools
—Focusing on the Songs Assigned for Accompaniment in
Teachers Recruitment Selection at Hokkaido Public Schools
(Practical Music Examination)—

秋元彩佳
Sayaka AKIMOTO

I. はじめに

小学校、特別支援学校（小学部）教員採用候補者選考検査において、本学の所在地である北海道では、小学校歌唱共通教材の中から検査員が課題曲1曲を示し、主旋律の楽譜を見ながら簡単な伴奏を付けて歌いながら演奏するという音楽実技検査を第2次検査にて実施している。（資料1）

資料1 令和4年度 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査 第2次検査音楽実技検査実施方法

音 楽 実 技 検 査	
検査の実施方法	
小学校、特別支援学校（小学部）	
1 検査方法	
ピアノ演奏	
小学校歌唱共通教材の中から検査時に示された曲の主旋律に簡単な伴奏を付けて歌いながら演奏する。	
2 検査の進め方	
検査は、上記1の方法により実施することとし、演奏途中でつまづきがあった場合は、その箇所から引き続き演奏させ、最初からのやり直しは認めない旨受検者に告げてから実施する。	
(1) 検査員は受検者に課題曲（1曲）を示し、主旋律の楽譜を見ながら簡単な伴奏を付けて歌いながら演奏することを告げる。	
(2) 検査員は持参した楽譜（伴奏のついた楽譜も可）を使用して演奏できることを告げ、持参した楽譜が「コピーしたもので、著作権を侵害するもの」ではないことを確認する。	
(3) 若干の準備時間を与える。（1分程度） ピアノを使って和音、伴奏等の練習をしてもよいことを受検者に告げる。	
(4) 主旋律に歌詞を付けて歌いながらピアノ演奏させる。	
	⇒ 判定

このような音楽実技検査を実施している理由として、音楽科の教科の目標、学年の目標、指導内容が、小学校学習指導要領にて①「知識及び技能」の習得 ②「思考力、判断力、表現力等」の育成 ③「学びに向かう力、人間性等」の涵養という三つの柱に沿って整理して示されたということがあるのではないだろうか。音楽科において③「学びに向かう力、人間性等」は方向目標という意味合いが強いことから、①「知識及び技能」に関する資質・能力と、②「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力の二つに再整理されており、①「知識及び技能」に関する資質・能力は、「知識」と「技能」に分けて示されている。(資料2)

資料2 指導内容の構成

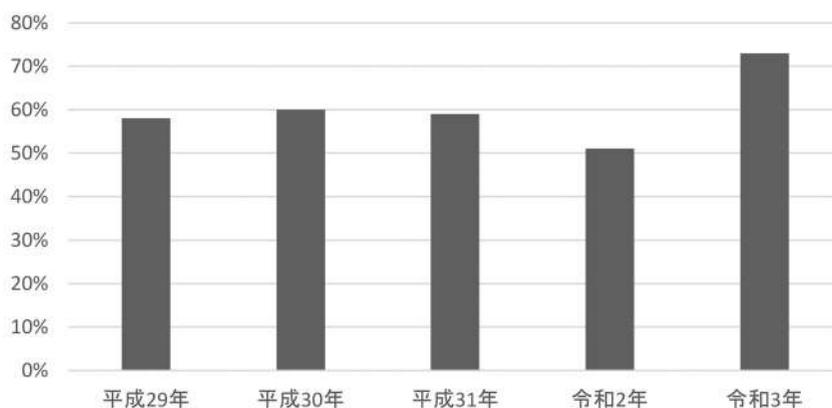
内容の構成			
A 表現	(1) 歌唱	ア 思・判・表	歌唱表現の創意工夫
		イ 知識	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり
		ウ 技能	(ア)聴唱・視唱 (イ)呼吸・発音・響きのある歌い方 (ウ)声を合わせた歌唱
	(2) 器楽	ア 思・判・表	器楽表現の創意工夫
		イ 知識	(ア)曲想と音楽の構造との関わり (イ)器楽の音色や響きと演奏の仕方との関わり
		ウ 技能	(ア)聴奏・視奏 (イ)旋律楽器及び打楽器の演奏 (ウ)音を合わせた演奏
	(3) 音楽づくり	ア 思・判・表	(ア)即興的な表現の創意工夫 (イ)まとまりのある音楽をつくる創意工夫
		イ 知識	(ア)響きや組合せの特徴 (イ)音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
		ウ 技能	(ア)設定した条件に基づいた即興的な表現 (イ)音楽の仕組みを用いた音楽づくり
B 鑑賞	ア 思・判・表	曲や演奏のよさ、曲全体を味わって聴くこと	
	イ 知識	曲想及びその変化と音楽の構造との関わり	
【共通事項】	ア 思・判・表	聴き取ったこと(要素)と感じ取ったこと(働き)との関わり	
	イ 知識	要素と音符、休符、記号や用語(音楽における働きと関わらせて)	

これからの学習において、表現及び鑑賞の活動を通して「思考力、判断力、表現力等」「知識」「技能」に関する内容を相互に関わらせながら一体的に育てていくことが重要であり、それらを別々に育成したり、「知識及び技能」を習得させてから「思考力、判断力、表

現力等」を育成するといった、一方向の指導になったりしないよう留意しなければならない。これらの内容を考える時に、ピアノを弾きながら歌うことができるというスキルは音楽科の指導において非常に重要だということが見えてくる。なぜなら、教員がピアノによる弾き歌いができることにより、授業において、即座にフレーズ単位、一小節単位、もしくは一音単位でも区切ることが可能となり、資料2にあるA表現の(1)歌唱ア・イ・ウ、(3)音楽づくりア・イ・ウ、B鑑賞のア・イ、〔共通事項〕ア・イを相互に関わらせ一体的に学ぶことができるからである。そして、このようなピアノによる弾き歌いのスキルを持ち合わせている教員を採用するためには、音楽実技検査が必要だと考えられる。

しかしながら、ピアノ及び歌唱というのは、教員養成校において1年間の指導を受けたというくらいでは易々と演奏できるようにはならないのが実状である。特に本学においては例年、幼児・児童教育学科児童教育コース入学者の50%～60%、多い時には70%が初心者であるため(表1)、ピアノを両手で弾けるようになることですらままならない場合も多い。これについては平成30年國學院大學北海道短期大学部紀要 第35巻に発表した『教員・保育士養成課程における初心者へのピアノ実技指導の一考察—歌唱共通教材・子どもの弾き歌いについて—』にて考察している。

表1 ピアノ実技Ⅰ 幼児・児童教育学科児童教育コース ピアノ演奏初心者割合推移



音楽実技検査のように、主旋律に合う伴奏を短時間で考え、歌いながら演奏するとなれば、相当な技術が必要とされることであるが、では、どのようにすれば初心者でも音楽実技検査で出題される歌唱共通教材に伴奏を付け、途中で止まることなく弾き歌いができるのか。また、実際の音楽科の授業においてピアノ伴奏を児童の歌声を聴きながらスムーズに弾くことができるのか。それは伴奏を限りなく簡易にするということである。右手は旋律を弾

かねばならず、その旋律自体を簡易にすることはできない。ということは、必然的に左手で弾く伴奏を簡易にする以外に方法は無いだろう。簡易伴奏譜で予め暗譜するほど練習をしておけば、余裕をもって最後まで弾き歌いができると考えられる。幸いにも、音楽実技検査は楽譜の持参が許可されているため、暗譜が心配であれば当日は楽譜を持参し検査に臨むことができるのである。このような簡易伴奏の楽譜を歌唱共通教材について作成し、練習を重ねておくことで、音楽実技検査の対策という意味でも、実際に教員となり授業を進めていく際にも役立つはずである。

以上のことから、本稿ではピアノ演奏についての初心者でも弾くことができる歌唱共通教材における簡易な伴奏付けを中心に、音楽実技検査や授業の際にも基本となる歌唱の注意点も合わせて考察する。

II. 北海道公立学校教員採用候補者選考検査 2次試験音楽実技検査出題傾向

全国でも教員採用候補者選考検査において音楽実技検査を課している地域は限られているが、本学の所在地である北海道では2次検査に音楽実技検査が課されている。また、その音楽実技検査の出題範囲である歌唱共通教材は、小学校学習指導要領にて各学年4曲ずつ、全24曲が定められている。しかし、実技検査において出題される課題曲は平成32年度までで5曲、令和3年度以降は3曲に絞られている。

そこで、平成30年から令和4年度までの出題傾向を検証(表2)した上で本稿において考察する曲を選曲することとした。

表2 平成30年～令和4年 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査 2次検査 音楽実技検査 小学校、特別支援学校(小学部)課題曲別出題回数
※年度の取り扱いについては北海道教育委員会の取り扱いに準じて記載

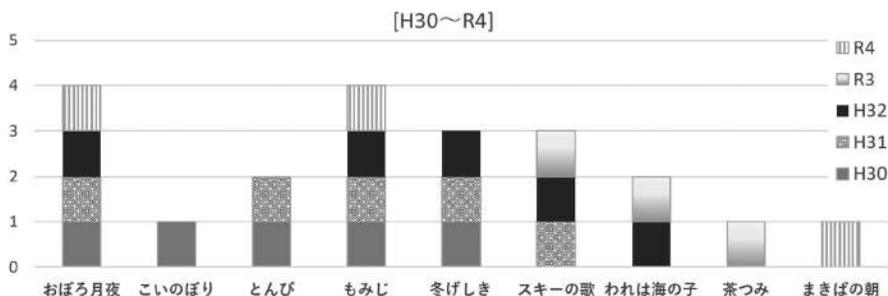


表2からわかる通り、過去5年間においては高野辰之作詞/岡野貞一作曲「おぼろ月夜」(文部省唱歌)〔第6学年〕、高野辰之作詞/岡野貞一作曲「もみじ」(文部省唱歌)〔第4学

年]の出題が多く、直近の令和4年度においても出題されていることから、考察を要すると考える。また、令和3年度には「茶つみ」(文部省唱歌)[第3学年]、令和4年度において船橋栄吉作曲「まきばの朝」(文部省唱歌)[第4学年]が新たに出題されていることから、この2曲も取り上げ、そのほか、近年に出題の多い林柳波作詞/橋本国彦作曲「スキーの歌」(文部省唱歌)[第5学年]、「われは海の子」(文部省唱歌)[第6学年]を考察に加えることとした。

Ⅲ. 小学校歌唱共通教材についての考察

1) 調性

本稿で考察する6曲の内、北海道内で使用されている教科書に掲載されている小学校歌唱共通教材、そして音楽実技検査において過去5年間に出版されている歌唱共通教材の4曲は原曲と調性が異なっている。「まきばの朝」が二長調からハ長調、「スキーの歌」がイ長調からト長調へ、「おぼろ月夜」が二長調からハ長調、「われは海の子」が変ホ長調から二長調へと、それぞれ半音、もしくは全音低く移調されて教科書に掲載され、音楽実技検査においては出題されている。

これは小学校学習指導要領に第2 各学年の目標及び内容 - [第3学年及び第4学年] - 2 内容 - A表現 (1) 歌唱の活動を通して、つぎの事項を身に付けることができるよう指導する - ウ 思いや意図にあった表現をするために必要な (ア) から (ウ) までの技能を身に付けること。(イ) 呼吸及び発声の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能 (ウ) 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能 同じく第2 - [第5学年及び第6学年] - 2 - A (1) - ウ (イ) 呼吸及び発声の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 (ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能 とあるように、児童が無理なく自然な発声で歌えるよう考慮されたためであろう。

考察する6曲の原調の場合の最高音はE²であったが、移調することによりD²となっている。児童の声域についてはかなり個人差があるものの、大久保友加里著『小学校における歌唱教育の実態と課題—換声点位置を考慮して—』では、男児でAs~As²、女児でB~C³としており、森田百合子・山本敬・秋山衛著『声楽教本』では、7・8才でC¹~E²、11・12才でH~G²としている。これらを基に児童の声域だけを考えるのであれば、歌唱共通教材について移調の必要は全く無いのだが、換声点での声の移行や頭声での発声の習得等、他の要素も勘案しなければならない。しかし、それらについて、教員が正しい認識や指導技術を持ち合わせているのか、私は声楽家として少なからず疑問を感じている。この問題についての考

察は本稿では行わないが、高音域も頭声であれば出るという結果だけを見て選曲や指導をすることは避けた方が良いだろう。その声が自然で響きのある声なのかということを前提に、実際に曲を歌うということに関して言えば、大久保や森田・山本・秋山の示した児童の声域の特に上限付近を使用しての歌唱は現実的では無いと思われる。もちろん大久保や森田らは、教員が児童の発声を理解しながら可能な限り個別の対応が必要だとしている。

以上のことから、皆で声合わせて歌う技能を身に付けるという目標においても、より自然な声で歌うことを念頭に置いた場合にも、児童の声の成長、衛生上において移調が必要なのではないかと考える。

よって、本稿においては原調ではなく、教科書、音楽実技検査において出題されている調性に合わせ考察することとした。

2) 簡易伴奏、歌唱についての考察

初心者にとって読譜と運指を同時に考えることは難易度が高いため、簡易伴奏譜には音名と指番号を記載する。運指については、特に左手のポジションの移動が無いように、五指のポジションで弾くことができる伴奏を考察する。

合わせて、歌唱についての注意点も考察するが、簡易伴奏譜には1番の歌詞のみを記載する。これは、音楽実技検査の出題において、歌詞は1番のみであるということと、楽譜内の情報は最小限に留めておいた方が良いという理由からである。初心者にとって右手と左手が離れて書かれていると、視線の移動が多くなりミスを生みやすく、また、歌詞の分量が多くなるにつれ、見間違いも増える傾向にある。よって、教科書に載っている2番や3番の歌詞については楽譜外に記載し、考察することとする。

また、曲名の表記については、各曲の原譜の表記ではなく、教科書もしくは音楽実技検査において出題された表記に準ずることとする。

a. 茶つみ〔第3学年〕

〔原譜〕

茶 摘

♩ - 104 文部省唱歌

1. なつも ちづく はちのー
 2. ひより つづきの きょうー

はちや のにも やまにも わかば かつ げる
 ごろを こころ やまどか にみつ みつ うたう

あれに みえる はち つみ じゃ ない か あか ね
 つめよ つめつ めつ まね ばならぬ つまにゃ

だすきに すげの かき
 にほんの ちにならぬ

p poco a poco rit. e dim.

〔簡易伴奏譜〕

茶つみ

(簡易伴奏)

文部省唱歌

1 な つ も ち か づ く は ち じ ゅ う は ち や

5 の に も や ま に も わ か ば が し げ る

9 あ れ に み え る は ち ゃ つ み じ ゃ な い か

13 あ か ね だ す き に げ の か き

【歌詞 2番】

①よりつづきのきょ - うこのごろを こころのどかにつみつうたう
つめよつめつめつまねばならぬ つまにやに②んのちゃにならぬ

《簡易伴奏付け》

- ・ 8小節目の例外を除き、1小節に1音のみとし、より簡易に弾けるよう音を選択した。

《運指》

左手 ・五指のポジションで弾けるよう配置している。

- ・ 4（ラ）、2（ド）の使用はそれぞれ1回ずつであり、その他は5（ソ）、1（レ）のみで弾くことができる。

右手 ・1・9小節目の「レーソ」、2～3・10～11小節の「シーレ」は、その後の旋律においての指くぐりや指跨ぎ、指替えを避けるため、それぞれ1-2、4-5とした。この部分は指を開く必要があるが、これによりほぼ固定された運指で弾くことができる。

- ・ 例外的に8小節目の「ミーレ」は1-2の運指となり、指跨ぎをする必要がある。

- ・ 8小節目において2で弾いた「レ」は、9小節目では1で弾くことに注意しなければならない。

- ・ 14～15小節の「ミーレ」は1-1となり、同じ1の指で隣の鍵盤へ移動させる。この運指は本来であれば使用しないが、この前後で指跨ぎを使った場合の方が初心者にとってはミスを生みやすいと考え、あえて1-1とした。

《歌唱》

- ・ ㊶, ㊷, ㊸は、母音を音にする前に空気を意識的に口外へ多く押し出す必要がある。押し出す空気の量がたりないと㊶は「あ」、㊷は「お」、㊸は「い」と聴こえてしまう。
- ・ やは発音の最初に少し「い」を、わの場合は最初に「う」を入れるとはっきりと聴き取りやすく発音できる。
- ・ ム, 本, ㇿは摩擦音であることを意識し発音する必要がある。摩擦の音が少ないと母音のみが聴こえてしまうので注意する。
- ・ が, げは鼻濁音とし、発音の最初に「ん」を入れる。
- ・ 2番の歌詞の「きょ・う」の「う」は実際には「う」とはっきり発音せずに、「お」に近く発音し、「きょ・お」とする。
- ・ 「うたう」のうは、直前の言葉が「つ」であり、同じ「う」が母音のため繋がって聴こえてしまう可能性がある。これを避けるために、「う」をもう一度言い直すように丁寧に発音をする必要がある。

b. まきばの朝〔第4学年〕

〔原譜〕

牧場の朝

杉村楚人冠 作詞
船橋栄吉 作曲

さわやかに ♩=132

1. た だ い ち め ん に た ち こ め た ま
2. も だ う お き だ し た こ や こ や の あ

ま
き ば の あ き の き り の う み
た り に た か い ひ と の こ え

p プリに なつ みーまーのれ うあすこ りち とに く
わ

mf

p

ろこ いそひ こつ かじの いさく まむしれ のかす

mf

p

ねす がな-る なな-る かん-りん かん-りん と

p

mf

p

〔簡易伴奏譜〕

まきばの朝

(簡易伴奏)

文部省唱歌
船橋栄吉 作曲

1 た だ い ち め ん に た ち こ め た ま
5 き ば の あ さ の き り の う み
9 ポ プ ラ な み き の う り と く
13 ろ い こ か ら い さ ま し く か
17 ね が な る な る カ ン カ ン と

【歌詞 2・3番】

2. も - う おきだした こや ごやの あたりにたかい①とのこえ
きりにつつまれあちこちと う ごく ひつ じのいくむれの
あずがなるなるリーンリーント
3. いま あのほる①のかげに ゆめから あめたもり やま
あかい①かりに あめられた とおいの ずえにほくどうの
あえがなるなるピーピーと

《簡易伴奏付け》

- ・ 11・15・19小節は1小節内に音が2つ配置されている。最初の「ド」のみでも可能ではあるが、曲の持つ自然な響きを保つにはそれぞれ2つ目の音を入れる方が望ましい。

《運指》

- 左手** ・五指のポジションに音を配置してあるためポジションの移動は無く、5（ド）、2（ファ）、1（ソ）の3音のみで弾くことができる。
- 右手** ・2～3小節は「ソ」を3で弾いた後に手のポジションを移動させ、「ラ」を2で弾くようにする。本来であれば2小節目の「ソ」を3回弾く間に3－2－1と指を替えて弾くと良いのだが、初心者にとってこれは難易度が高い。従って、四分休符、3小節目の左手の指番号2との対称性を利用し、手のポジションの移動を行う。
 - ・ 4小節目は同じ「ソ」であるが、1・2拍目は1で弾き、四分休符の間に準備をし、4拍目は2で弾く。
 - ・ 7～8小節目「ミ－レ」は1－2の指跨ぎである。
 - ・ 10小節の「ド－ミ」は1－1とした。即ちポジションの移動が必要である。ここは、1－2も可能であるが、そのようにした場合、その後の運指を4－5もしくは2－3で指を開かなければならなくなり、これはどちらとも初心者にとっては弾きづらいため1－1とする。
 - ・ 14小節目の「ソ－ミ」は2－3でポジションの移動をする。2－1の方が弾きやすいことも考えられるが、その場合はその後の「ミ－ソ」で1－5を使わざるを得ない。この場面での1－5はかなり手を縮める必要があり、このテクニックを初心者が使うにはリスクが高いため、より確実に弾けるであろうポジションの移動を選択した。
 - ・ 17小節「レ－ミ」は2－1で指くぐりを使用する。
 - ・ 19小節「ミ－レ」は1－2の指跨ぎを使用する。

《歌唱》

- ・ ㇿ, ㇼ, ㇾ, ㇽの摩擦音をしっかりと聴こえるようにする。
- ・ 11小節1番の歌詞の「うっすり」の促音は、直前の「う」をしっかりと伸ばし、「す」の直前に入れる。
- ・ が, ご, げは鼻濁音とし、直前に「ん」を入れるようにするとよい。
- ・ 2番の歌詞の「も－う」は「う」をはっきりとは言わずに「お」の母音のまま伸ばすように歌い、その直後の「おきだした」の「お」を、もう一度言い直すように発音する。

- ・ や, ゆは直前にほんの少し「い」を入れるとはっきり発音が聴こえるだろう。
- ・ ㊦, ㊧は母音の前に空気の音が必ず聴こえるように注意が必要である。
- ・ じ, ずは有声の摩擦音であるため、発音の際には意識的に空気を前歯の裏まで到達させるよう心掛けることが大切である。
- ・ 3番の歌詞「もりやま」は、1つめの「や」は直前に「い」を入れるが控えめにし、2つめの「や」をしっかりと「い」を入れ、言い直すようによようにして発音すると「やま」という単語がはっきりと聴こえてくるだろう。

c. もみじ〔第4学年〕

〔原譜〕

もみじ葉

高野辰之 作詞
岡野貞一 作曲

♩ = 92
mp

1. あきのゆーひに て るーやまもみじ
2. たにのながれに ちりーうくもみじ

こな いも うす ら い も て か は ずーあ る な かつ て
な み に ゆ す ら い も て か は なーれ て な よ っ て

mf

ま つ を い ろ ぐ る か い えーで やーつ た は
あ か や き い ぐ の か い えーき せーつ た は

mp

や ま す の ふ も と の も す お そーも せーし き
み ず の う え に も す お そーに し き

〔簡易伴奏譜〕

もみじ

(簡易伴奏)

文部省唱歌
高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲

ラ ソ ファ ソ ラ ファ ド ファ ミ ファ ソ ド ラ ソ ファ ソ
1 あ きの ゆ う ひ に て る - や ま も み - じ

5 ラ ソ ファ ソ ラ ファ ド ファ ミ ファ ソ ド ラ ソ ファ
こ い も う す い も か ず - あ る な か に

9 ド ラ シ[♭] ド レ ド ラ ソ ファ ソ ラ ソ
ま つ を い ろ ど る か え - で や - つ た は

13 ド レ ド ラ ソ ファ ド ファ ミ ファ ラ ソ ファ
や ま の ふ も と の す そ - も よ う

【歌詞 2番】

2. たにのながれにちりうくもみじ なみにゆられてはなれてよって
あかやきいろのいろまままに みずのうえにもおるに△き

《簡易伴奏付け》

- ・全体で「ファ」と「ド」のみという非常に簡易な伴奏付けが可能であった。
- ・15小節目のみ2音であるがその他は1小節に1音という点も非常に簡易な伴奏だと言えるだろう。

《運指》

左手 ・五指のポジションで2（ファ）と5（ド）のみの使用で、非常に簡易である。

右手 ・2・6・14小節の「ファード」は2-1となり、指を開かなければならない。
・11・13~14小節の「ソーファ」は1-2の指跨ぎを使用する。

《歌唱》

- ・**ゆ**, **や**, **よ**は、いずれも発音の際にごく短く「い」を入れるとはっきりと聴こえる。
- ・**ひ**, **ふ**, **ほ**は、母音の前に必ず空気の音が聴こえるように注意して発音する必要がある。
- ・**じ**, **ざ**, **ず**の有声摩擦音は振動している音をよく意識をして発音するよう心掛ける。
- ・「もよ-う」は「う」とはっきり発音せず、「よ」の母音の「お」を伸ばすようにし、「もよ-お」と歌う。
- ・**が**の鼻濁音に注意する。
- ・C², D²の音を自然な発声で歌うために、「あ」、「お」の母音を利用し、口をそれまでよりも大きく開けるようにする。

d. スキーの歌〔第5学年〕

〔原譜〕

スキーの歌

林 梅波 作詞
橋本國彦 作曲

The musical score is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It begins with a tempo marking of ♩ = 120. The score consists of six systems, each with a vocal line and a piano accompaniment. The piano part features a consistent eighth-note bass line. The lyrics are written in Japanese with horizontal lines indicating pitch and phrasing. Dynamics include *f*, *mf*, and *ff*. A star symbol is placed above the final measure of the sixth system.

1. 2. か が や く ひ の か ー げ ら ー は ゆ ー る ー の や ー ま ち
と お と お お お ぞ ー ら ー は し ー る ー だ い ー ち

か が や く ひ の か ー げ ら ー は ゆ ー る ー の や ー ま ち ふ い
と お と お お お ぞ ー ら ー は し ー る ー だ い ー ち

も ば と か め が け て ス タ ー ト の き れ ー ば
と か な ー き て ん ち ー の う ち ー を

こ ス ゆ き は ま い た ー ら て ー か げ ー は ー き け ー
ト ッ ク ま き し ー て ー わ れ ー は ー か け ー

ふ る ー わ ぜ れ は ー き か け ー ー ぶ る

★ この二重唱は低音部を主旋律とする

[簡易伴奏譜]

スキーの歌

(簡易伴奏)

文部省唱歌

林 柳波 作詞 橋本国彦 作曲

1 か がやくの か - げ - はゆ - る - の や - ま

5 か がやくの か - げ - はゆ - る - の や - ま ぶ

9 も とを め がけて タ - ト き れ - ば

13 こ けき は ま い た - ち - か ぜ - は - け -

16 ぶ か ぜ は け ぶ

【歌詞 2・3番】

- 2 とぶとぶおおぞら ㊦△るだいち とぶとぶおおぞら ㊦△るだいち
いっばくかげなきてんちのうちを
△トツかざ△てわれはかける われはかける
- 3 やまこえおかこえ くだる△やめん やまこえおかこえ くだる△やめん
たちまち△えぎるたにをばめがけ
おどれば△ながら㊦ちょうのここち ㊦ちょうのここち

《簡易伴奏付け》

- ・「ソ」, 「レ」のみの非常に簡易な伴奏付けが可能であった。
- ・16, 17小節以外は全て1小節1音で構成した。
- ・16小節4拍目は無くても曲として成立させることができるが, 4拍目を弾くことによって, この曲が持つ前に進んでいく様子を表現することができる。
- ・17~18小節はI-V-Iの終止の形を作る必要があるため, 17小節に2つの音を用いている。

《運指》

左手 ・5 (ソ), 1 (レ) のみで弾くことができるため, 非常に簡易である。

右手 ・左手は非常に簡易であるが, 右手で弾く旋律の難易度がやや高く, 特に, 1・5・13小節の旋律の「ド-シ」は1-1を使う。本来, 「ド-シ-レ」で1-2-1の指くぐりを使用することが多いが, それには指くぐりとすばやい指の移動が必要となり初心者にとってはミスを招きやすいため, あえて1-1という運指とした。「レ-ソ」は2-3と使用するため, 指を開く必要がある。

- ・7~8小節「ミ-レ」は1-2の指跨ぎを使用。
- ・8小節目の1・2拍目と4拍目は同じ「レ」の音だが, 次の旋律を考慮し, 3拍目の四分休符の間に準備をし, 2から1への指替えを行う。

《歌唱》

- ・が, げの鼻濁音や, ㊦, ㊦, ㊦や, や, ゆ, わ, △, △, △の発音については, 他の曲と発音の仕方は同様であるが, この曲のテンポとリズムに合わせて確実に聴こえるよう歌唱できるまでには何度も練習が必要だと考えられる。
- ・2番の歌詞の「いっばく」や「ストック」の促音は, 音価の終わり間際に入れるようにする。
- ・「ん」は, 口を必ず閉じる。

e. われは海の子 [第6学年]

[原譜]

われは海の子

作詞者不詳
作曲者不詳

$\text{♩} = 126$
mf

1. わ ー れ は う み の こ に し ら な み し の て
2. う ま れ て し お に ゆ あ み し の て

さ わ ぐ い そべ の まつ ば ら に き
な み を こ もり の まう た と ら き

け む り た な び く と ま や こ き を
せ ん り よ せ く る と う み の き を

わ が ない つ か ー し き す み か な れ り
す ー い て わ ら べ と な り に な け り

〔簡易伴奏譜〕

われは海の子

(簡易伴奏)

文部省唱歌

レ₃ ラ₁ ラ₁ レ₃ <ド#レ>₁ ミ₂ ♯ファ₃ ミ₂ ♯ファ₃ シ₅ ラ₄

1 わ れ は う む の こ △ ら な み の

レ₁ レ₁ レ₁ レ₁

5 シ₃ ラ₂ シ₃ ド#₄ レ₅ レ₅ ラ₃ ♯ファ₂ ♯ミ₁ ソ₃ ♯ファ₂ ミ₁ レ₂

△ さ - わ ん い △ そ べ の ま つ ば ら に

ソ₅ レ₁ ラ₄ レ₁

9 ミ₁ ミ₁ ミ₁ ♯ファ₂ ソ₃ ラ₄ ラ₄ ♯シ₃ レ₅ ド#₄ シ₃ ラ₂

け む り た な び く と ま や こ △ そ

ラ₄ レ₁ ソ₅ レ₁

13 シ₃ ラ₂ シ₃ ド#₄ レ₅ ラ₃ ♯ファ₂ ♯ミ₁ ソ₃ ♯ファ₂ ミ₁ レ₂

わ が な つ か △ し き △ す み か な れ

ソ₅ レ₁ ラ₄ レ₁

【歌詞 2・3番】

- 2 うまれて△おに□あみ△て なみをこもりのうたときき
 〇んり□〇くるうみのきを △いてわらべとなりけり
- 3 たかく(は)なつくい〇のかに △だんの(は)なのかおりあり
 なぎさのまつに〇くかぜを いみじきがくと□われはきく

《簡易伴奏付け》

- ・ 曲全体を「レ」, 「ソ」, 「ラ」の3音のみで構成している。
- ・ 1小節に1音のみの進行で、非常に簡易な伴奏である。

《運指》

- 左手 ・ 1 (レ), 4 (ラ), 5 (ソ) の指のみを使用し、五指のポジションのまま弾くことができる。
- 右手 ・ 2小節目の「ド[#]-レ」は2-1の指くぐりとした。こうすることにより、次に続く旋律を手のポジションを移動させることなくスムーズに弾くことができる。
 - ・ 7~8, 15~16小節の「ミ-レ」は、1-2の指跨ぎを使う。
 - ・ 10~11小節の「ラ-シ」は、4-5と使い、手のポジションを移動させる。

《歌唱》

- ・ わは、強拍の1拍目であることが多く、はっきりと発音が聴こえるよう、唇を一度すぼめて「う」の形を作ってから発音すると良い。
- ・ や, ゆ, よは、それぞれ「い」を直前に入れて発音し歌う。
- ・ 各行のすべての音が歌詞にあり、毎度摩擦の音を意識して発音するよう心掛けなければならない。
- ・ ぐ, が, ぎはそれぞれ確実に鼻濁音として聴こえるよう発音する。
- ・ 2番の歌詞「うみのきを」の「う」は、直前の「る」と繋がってしまいやすいため、改めて歌い直すようにすると良い。
- ・ 3番の歌詞に④, ⑤がそれぞれ2回ずつと回数は少ないが、1拍目が充てられているため、必ず息の音が母音よりも先に出るよう注意する。

f. おぼろ月夜〔第6学年〕

〔原譜〕

おぼろ
朧 月 夜

高野辰之 作詞
岡野貞一 作曲

♩ = 72

p

1. な の は な ば た け ー に も い り ひ う す れ み わ
2. さ と わ な ほ か げ ー も も り の い す れ も た な

た か す や ま の ー は か た す み ふ か し も は る
か の こ み ら ー を た ど る ひ と も か わ

か ぜ の そ よ ふ ー く そ か ー ら を み れ ば も ー き な
が き か か り ー て に お お い あ わ し
が ら か か す め ー る お ほ ろ あ づ き よ

mp

mf

p

p

〔簡易伴奏譜〕

おぼろ月夜

(簡易伴奏)

文部省唱歌

高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲

1 なの(は)なばたけーにいり(ひ)う(す)れみわ

5 たす(や)まのー(は)か(す)み(ふ)か(し) (は)る

9 か(ぜ)(そ)よ(ふ)ーく(そ)ーら(を)み(れ)ば(ゆ)う

13 づ(き)か(か)りー(て)に(お)い(あ)わ(し)

【歌詞 2番】

△とわの(は)かげも もりのいろも たなかのこみちを たどる(ひ)とも
 かわ(す)のなくねも かねのおとも さなが(ら)か(あ)める おぼろ(づ)きよ

《簡易伴奏付け》

- ・タイを用いることにより、曲の持つ柔らかな雰囲気損なうことなく、音の数を少なくすることができる。
- ・1小節に1音で、「ド」、「ファ」、「ソ」の3音のみで構成されている。特に「ド」が主であり、「ファ」が2回、「ソ」は1回と少なく、初心者にとっては弾きやすいポイントとなるだろう。

《運指》

- 左手** ・曲の終わりまで五指のポジションのまま、5（ド）、2（ファ）、1（ソ）のみの使用で弾くことができる。
- 右手** ・1、5、13小節には2-1もしくは3-1の指くぐりを使う。それぞれ八分音符なので、やや急がなければならないが、左手がタイで伸びている小節であるため、右手に注意を払いながら弾くことができる。
 - ・4小節目「ミーソ」は3-3とし、手のポジションを移動させなければならない。
 - ・7小節「ラーミーレ」は1の指を広げて「ミ」を弾き、すぐに指跨ぎを使用し「レ」を弾く。
 - ・10小節「ソーソ」では、手のポジションを移動させ1-3とする。
 - ・11~12、15小節の「ミーレ」は2-1による指跨ぎである。

《歌唱》

- ・㊦, ㊧, ㊨は、歌詞の大切な部分であるため、必ずはっきりと聴こえるよう発音しなければならない。
- ・「いりひ」の「り」は、舌を意識して使い子音を発音しなければ、直前の「い」と同じ母音のため曖昧になってしまう。必ず舌尖を上歯茎に当てからすばやく下ろすように発音する。
- ・他の曲と同様に、㊩, ㊪, ㊫, ㊬は空気の音を、㊭, ㊮, ㊯は直前の口のかたちに注意しながら歌唱する。㊰, ㊱, ㊲は有声の摩擦音が必ず聴こえるようにし、㊳, ㊴は鼻濁音とする。

IV. 考察を終えて

小学校歌唱共通教材における簡易伴奏については、あくまでも初心者が弾くという前提の上での考察の結果、やはり、1小節に1音ないし2音までにするのが望ましいと考えられる。右手で旋律を弾いている以上、左手の伴奏は極力音数を抑えることで曲全体をスムーズ

に弾き終えることができる可能性が高くなるからである。また、運指について、特に左手は五指のポジションが必須であり、それは本考察において可能であることがわかった。右手の旋律は、必ず指替えや指くぐり、指跨ぎ等を行いポジションの移動が避けられないため、左手はポジションの移動を無くすことを優先に考えるべきである。

歌唱については、母国語であるからこそ、子音に気を配り歌うことが大切である。母国語であるが故に皆がわかるだろうと思ってしまいがちであるが、歌詞をしっかりと聴いてもらうためには、自分が思っている以上に子音をはっきりとわかりやすく発音するべきだと考える。また、自然な発声を常に心掛け、喉を詰めたりすることがないように注意を払う必要があるだろう。

そして、初心者の練習において大切なことは、継続的に練習をすることであり、それは即ち、練習へのモチベーションを維持することである。初心者は楽譜を見てもすぐには曲全体を理解できないことも多く、弾けるようになるまでに時間がかかってしまい、練習へのモチベーションが下がりがちである。そのようなことを少しでも減らし、練習の効果を高めるために、楽譜を大きくするというのを薦めたい。学生にA4サイズからA3サイズへ楽譜を拡大して練習をするよう促したところ、階名・リズム・運指についての進歩が見られ、各歌唱共通教材への理解が増し、総合的な弾き歌いの表現力を修得することができたからである。

V. おわりに

先にも述べたが、教員採用候補者選考検査において音楽実技検査が課される地域は少ない。北海道でも札幌市は令和4年度から廃止されており、その理由は次のように公表されている。〔札幌市では、ピアノを用いた指導に限らず、ICT機器等の活用等、場面に応じた効果的な指導ができる人材を求めていることや、受検者負担軽減の観点から、当該区分における音楽実技（ピアノ演奏）の検査項目を廃止します。〕確かに、小学校学習指導要領にも、第3指導計画の作成と内容の取扱い・2・ウ 児童が様々な感覚を働かせて音楽の理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピューターや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫することとあり、ICT機器を活用する方向ではあるが、それは例えばレコーダーに演奏等を録音し、それを聴き、客観的に自分達の演奏を捉えることや、音楽ソフトやプログラミングを通して音楽を可視化したり、音楽づくりを論理的な視点から考えることに使用する等とし、歌唱共通教材の伴奏においてはCDを使用するのではなく、教員が児童の前で児童ひとりひとりの顔の表情や息づかい等の反応を見ながらピアノで弾いて歌唱することが重要ではないだろうか。やはり、生の音を聴くことでし

か得られない音楽体験があり、また、教員が児童の反応を見ながら臨機応変に対応し授業を進めることによって効果的な授業展開が可能となり、それは音楽を通して児童の能力を伸ばすことにつながると考えるからである。しかし、採用候補者選考検査から音楽実技検査が廃止されれば益々ピアノや歌唱の演奏スキルを獲得する機会が減ってしまうだろう。教員として教壇に立つようになれば他の授業の準備もあるため時間が無く、また、元々演奏のスキルに不足がある場合には練習に時間がかかるため後回しとなり、それを補うためにCD伴奏を使用せざるを得ないとも現場の教員から聞いている。そこで、このような歌唱共通教材の伴奏についての事例だけではなく、音楽科全体の授業の質を落とさないためにも、基本的な音楽のスキルをすでに身に付けている音楽専任教員の配置が必要と考えるが、北海道において配置している学校はまだまだ少ないのが現状である。全校に音楽専任教員を配置するという事はかなり難しいということは想像に難しくなく、例えこれが実現するとしてもかなりの年数を要するであろうが、将来の日本を担う児童のために、早期に音楽だけでなく図工、体育、語学そしてIT等の教科は専門性が高いので専任教員を配置すべきではないだろうか。しかしながら、当分の間はこれまで通りに教員が専門性の高い教科の授業であっても担当するほかないわけであり、そうであれば、実際に教員になる前、つまり大学での学習期間中に少しでもスキルを獲得していくべきである。特に音楽において言えば、楽器や歌の演奏スキルは一朝一夕に身に付くものではない。1日の中で長時間の練習をしたからと言って身に付くスキルはそれ程多くなく、とにかく継続して練習することが演奏スキル獲得のためには必須なのである。そこで、大学であれば4年間、短大であれば2年間を修得期間として設定することを考えたい。練習時間の長さもさることながら、スキルの定着を図る意味で、練習を継続できる環境を整備することが必要である。

音楽科のための学びにかけられる時間が有限であることは言うまでもないが、教員養成のシステムとして、演奏スキル獲得のための特質を理解した上で授業設定されることを願って止まない。

また、本考察の結果、小学校歌唱共通教材に非常に簡易な伴奏を付けるということは可能であることがわかった。これだけ簡易な伴奏であれば、初心者として入学してきた学生でも止まらずに曲の最後まで弾けるようになるのではないかと考える。これをぜひ採用候補者検査や実際の授業に活かしてもらいたい。

参考・引用文献

北海道教育委員会（2021）、「北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査 第2次検査 実技検査の進め方」, p.2. 北海道.

- [https://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/fs/3/4/0/5/6/5/6/_/R4%E5%AE%9F%E6%8A%80%E6%A4%9C%E6%9F%BB%E3%81%AE%E9%80%B2%E3%82%81%E6%96%B9\(HP%E7%94%A8\).pdf](https://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/fs/3/4/0/5/6/5/6/_/R4%E5%AE%9F%E6%8A%80%E6%A4%9C%E6%9F%BB%E3%81%AE%E9%80%B2%E3%82%81%E6%96%B9(HP%E7%94%A8).pdf), (参照2021-11-1)
- 宮崎新悟・志民一成 (2017) 平成29年度版小学校新学習指導要領の展開 音楽編 明治図書出版株式会社 ISBN978-4-18328318-4
- 山下薫子 (2017) 平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理 音楽 pp.36-37. 株式会社東洋館出版社 ISBN978-4-491-03402-7
- 大久保友加里 (2020). 「小学校における歌唱教育の実態と課題—換声点位置を考慮して—」 鈴鹿大学・鈴鹿短期大学部教職研究 第1巻 2020-03 pp.141-151
- 森田百合子・山本敬・秋山衛 (2001) 声楽教本 小学校課程・幼稚園課程・保育士養成課程用 株式会社 教育芸術社 ISBN978-4-87788-477-2
- 畠澤郎 (2015) 小学校教員養成課程用 新・音楽科教育法 株式会社 朝日出版社 ISBN978-4-255-15573-9 c1073
- 長田暁二 (1998) 日本唱歌名曲集 p102. 124. 129. 154. 182. 183. 186. 187. 株式会社全音楽譜出版社 ISBN978-4-11-620040-0
- 新実徳英ほか21名 (2021) 小学校音楽 音楽のおくりもの3 教育出版株式会社 ISBN978-4-316-20399-7
- 新実徳英ほか21名 (2021) 小学校音楽 音楽のおくりもの4 教育出版株式会社 ISBN978-4-316-20400-0
- 新実徳英ほか21名 (2021) 小学校音楽 音楽のおくりもの5 教育出版株式会社 ISBN978-4-316-20401-7
- 新実徳英ほか21名 (2021) 小学校音楽 音楽のおくりもの6 教育出版株式会社 ISBN978-4-316-20402-4
- 札幌市教育委員会 (2021). 「札幌市採用希望 令和4年度(2022年度)北海道・札幌市 公立学校教員採用候補者選考検査実施要領」. p.2. 札幌市.
<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/kyoshokuin/documents/r4jisshiyouryou.pdf>, (参照 2021-11-1)